

2023年12月17日

礼 拜

聖書

ルカ1章26～38節

1:26 さて、その六か月目に、御使いガブリエルが神から遣わされて、ガリラヤのナザレという町の一人の処女のところに来た。1:27 この処女は、ダビデの家系のヨセフという人のいいなずけで、名をマリアと叫んだ。1:28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおります。」1:29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。

1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。

1:32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

1:34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょう。私は男の人を知らないのに。」1:35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。1:36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もある年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは何也不会ありません。」

1:38 マリアは言った。「ご覧ください。私は主のはしたためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

## 説教

「神にとって不可能なことは何もありません。」

今日はアドベント第三週の礼拝です。  
アドベントのろうそくが三本点灯いたしました。  
今日も、心に聖霊の油を注いでいただいて、  
このキャンドルの様に、  
世の光として、信仰のともしびをかかげましょう。



ルカは福音書を書き始めるにあたって、ザカリヤを登場させています。次いで今日の所はマリヤが登場します。

ザカリヤはアロンの子孫、民を代表する祭司職、そして選ばれて民を代表して神殿で祈りをささげ、香を焚く栄誉ある職務の最中に天使が現れ、あなたの妻エリサベツは身ごもって男の子を産みます、と語られました。

高齡のエリサベツが身ごもって男の子を産む。  
名をヨハネと名付けなさい。  
祭司ザカリヤはそれを、御使いの語ることばを  
信じる事が出来ませんでした。

1:18 ザカリヤは御使いに言った。「私はそのようなことを、何によって知ることができるでしょうか。この私は年寄りですし、妻ももう年をとっています。」

この不信仰な応答に対して天使は  
1:19 御使いは彼に答えた。「この私は神の前に立つガブリエルです。あなたに話をし、この良い知らせを伝えるために遣わされたのです。  
1:20 見なさい。これらのことが起こる日まで、あなたは口がきけなくなり、話せなくなります。その時が来れば実現する私のことばを、あなたが信じなかったからです。」

「その時が来れば実現する神のことば」をザカリヤは信じなかったから、10ヶ月の間、ことばが語れなくなっていました。

人々はザカリヤのこの変化を見て、まぼろし、神様からのおことばを聞いたと理解しました。

神様が働いている、ことばを語っていると言うことをザカリヤは沈黙で語っています。

1:24 25 しばらくして、妻エリサベツは身ごもった。そして、「主は今このようにして私に目を留め、人々の間から私の恥を取り除いてくださいました」と言い、五か月の間、安静にしていた。

ザカリヤと違って妻エリサベツは妊娠がわかると直ぐに主に感謝、賛美を献げました。

「主は今このようにして私に目を留め、人々の間から私の恥を取り除いてくださいました」

ルカ福音書にはザカリヤ夫婦に続いてマリヤが登場します。

ザカリヤとマリヤは対象的です。

ザカリヤは学歴豊かな祭司、

マリヤは田舎の無学な少女。

ザカリヤは人生経験豊かな高齢者、

マリヤは未熟な若い少女。

ザカリヤは神殿で民を代表して香を焚く礼拝中、

マリヤは田舎の家で家事労働中。

ザカリヤと同じようにマリヤにも天使が現れ語りかけました。

1:28 御使いは入って来ると、マリアに言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。」1:29 しかし、マリアはこのことばにひどく戸惑って、これはいったい何のあいさつかと考え込んだ。



ザカリヤは取り乱し、恐怖に襲われています。

(12節)

マリヤはひどく戸惑って、

これは何の挨拶かと考え込んだ。(29節)

さらに天使はザカリヤと同じようにマリヤにも語っています。

1:30 すると、御使いは彼女に言った。「恐れることはありません、マリア。あなたは神から恵みを受けたのです。」

ザカリヤにもマリヤにも  
「恐れることはありません」  
と天使は声をかけています。

ザカリヤには「あなたの願いが聞かれたのです」  
ザカリヤの長年切に願っていた赤ちゃんを高齡の妻、  
エリサベツが出産する予告しています。

次いで天使ガブリエルはマリヤに具体的に語っています。

「1:31 見なさい。あなたは身ごもって、男の子を産みます。その名をイエスとつけなさい。1:32 その子は大いなる者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また神である主は、彼にその父ダビデの王位をお与えになります。1:33 彼はとこしえにヤコブの家を治め、その支配に終わりはありません。」

ヨセフと婚約中のマリヤに、ヨセフに断りもなく  
身ごもって男の子を産みます。  
名前まで決めてイエスとつけなさい、とガブリエルは  
マリヤに語っています。

ヨセフと婚約中の処女マリヤは、まだ結婚していないので、その時赤ちゃんの妊娠を祈っていません。

ましてヨセフではなく、聖霊による妊娠は全くの想定外、思いもよらぬ、考えたこともない天使の予告でした。

さらに貧しい田舎の少女マリヤから  
「いと高き神の子、その子はダビデの王位につきます。  
ヤコブの家を治め、その支配は終わることがありませ  
ん。」

信じられないような予告がマリヤにされています。

1:34 マリアは御使いに言った。「どうしてそのようなことが起こるのでしょう。私は男の人を知らないのに。」

「どうしてそのようなことが起こるのでしょう」このことばの中には、神様が語られたことだから、実現する、しかしどうして、どのようにしてそのようなことが起こるのですか、神様の全能性を信じ、信賴して、疑問を尋ねています。



ザカリヤに天使は語っています。  
「その時が来れば実現する私のことばを、あなたが  
信じなかったからです。」

ザカリヤは神様のことばを信じていなかった。  
信じていなかったから、語る資格がないので、  
10ヶ月間、ものが言えなくなった。

マリヤは神のことばは実現すると素直に信じていた。  
でも婚約者があり、まだ、結婚していないのに何故、  
妊娠するのですか、何の為にこのようなことが起こる  
のですかと素朴に質問をしています。

マリヤは信じている問いかけ、  
ザカリヤは不信仰のつぶやき。

私たちの人生に、主よ、何故ですか？と  
わからない事、理解出来ないことが起こることがよくあ  
ります。神様を信じて、神様の愛、神様の全能を信じ  
て、何故このようなことが起こったのですか、  
と祈ることがマリヤ的な祈り。

ザカリヤは神様の全能を信じていても、  
神様の時を信じ委ねることが出来なかった。  
自分の願うときに神様は事をすべきと思っていた。  
時間的には自己中心。神様は時も支配しておられる

天使はマリヤに具体的に説明をしています。

1:35 御使いは彼女に答えた。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる子は聖なる者、神の子と呼ばれます。

1:36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。

1:37 神にとって不可能なことは何もありません。」

マリヤは聖霊によって身ごもった事、  
いと高き方、神様の力がマリヤをおおって  
イエス様を身ごもった事を天使は教えています。  
妊娠の原因は神様の力が働き、聖霊によった事を  
明言しています。  
生まれてくるイエス様は  
聖なる者、神の子と呼ばれます。

聖なる、罪のない救い主、メシヤをこの世に送るために  
神様が取らなければならない手段でした。

普通の人間、男女の結婚によって生まれる者は  
アダムとエバの罪の遺伝子を持って生まれ、  
聖なる者ではなく、罪をきよめる働きの出来る者ではありません。  
罪なきメシヤ誕生のために神様の取られた非常手段です。  
イエス様は罪のない、神の子としてこの世に来てくださいました。

私たち罪を犯して墮落した人間の身代わりになって人間を  
救うためには、完全な人でなければなりません。  
お人形さんでは人の身代わりにはなれません。  
完全な罪なき人をこの世に送るために神様の取られた  
非常手段でありました。

神様はマリヤが信仰に拠ってこの試練？恵みの時を受け入れる様に励ましの信仰の友を紹介します。高齡妊娠したエリサベツです。マリヤの叔母の様です。1:36 見なさい。あなたの親類のエリサベツ、あの人もあの年になって男の子を宿しています。不妊と言われていた人なのに、今はもう六か月です。



エリサベツは45節で「1:45 主によって語られたことは必ず実現  
すると信じた人は、幸いです。」

人のことばや世間の習慣を信じ、主のことばの信じられなかった  
ザカリヤの事を覚えながら、時が来れば必ず実現する主のこと  
ばを信じる幸いを分かち合っています。

信仰の友、祈りの友、励まし合いはとても大切です。  
クリスマスに集まる、共に神のことば、命のパンをいただき、体の  
ための食べ物を分け合う事も大切、有意義。

マリヤはエリサベツを尋ねて3ヶ月ほど滞在して交わりを楽しん  
でいます。

天使はダメ押しの様に

「1:37 神にとって不可能なことは何也不会ありません。」

マリヤの処女の妊娠だけではありません。

婚約者のヨセフが理解して受け入れる事においても  
神に取って不可能ではないと天使は宣告してマリヤに平  
安を与えています。

天使はヨセフの所にも行って夢でマリヤに起こった事を告知  
して、ヨセフが安心してマリヤを迎えられる様に働いていま  
す。

イエス様の宣教、奇跡、十字架、復活、聖霊の降臨

神に取って不可能な事は何もない。

今日においてもイエス様は人を新しく生まれ変わらせてくださいます。

創造主なる神は、人を再創造される神様です。

罪に捕らわれた人、苦難の中の人、イエス様を信じて人生が変わる、生まれ変わって、罪から解放され、

神の栄光のために歩める様に変えてくださる、  
神に取って不可能な事はないと確信しましょう。

最後マリヤは信仰の告白、主に身を完全に委ねる、明け渡す告白をしています。

「ご覧ください。私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおり、この身になりますように。」すると、御使いは彼女から去って行った。

今日、マリヤと共に、主に委ねる信仰、明け渡す信仰、お任せしますと告白をしてこの礼拝を終わりたいと思います。

祈り。